

2022年2月

第137号

ぱれっと



(株)北日本ベストサポート
Tel. 018-883-1888

コロナ第六波が猛威を振るう

新型コロナウイルス「オミクロン株」が感染急拡大し猛威を振るっている。

1月20日には全国の新規感染者数が前々日の3万2千人から4万6千人に達し三日連続で過去最高を記録した。

これまでは「第5波」の2021年8月20日に2万6千人近くまで増加したのが最高だったが、今回は一週間前の3倍強まで急拡大している。

政府は1月19日、東京など13都県に新型コロナウイルスの「まん延防止等重点措置」を適用することを決定した。既に9日から適用となっている広島・山口・沖縄を含め対象は16都県となる。今回の措置は21日から2月13日までで対象地域では知事が飲食店に営業時間短縮の要請や命令ができる。

政府は基本的対処方針で十分な対策を取る認証店の営業時間は午後9時までとし、非認証店は午後8時まで酒類も提供しないよう求め、認証店で酒類の停止要請するかどうかは自治体に判断を委ねた。また、イベントの人数制限も従来の方針を継続し、感染防止安全計画策定を要件に、これまで通り最大2万人を上限とした。

今回の新型コロナウイルスの変異型「オミクロン株」の特徴は感染力が極めて強く急拡大を招く恐れがある半面、重症化リスクが比較的高くないと言われており、また、オミクロン型感染者の3分の2は5日目には他人にうつさなくなるとも言われ従来型コロナとの対応は異なった対策が求められている。

従来は保健所が逐一感染経路を追跡したり、「積極的免疫調査」を実施し、感染拡大防止や病床の確保など積極的に関与してきたが、感染拡大のスピードが早く、従来型では効果的対応が限定的なものになる可能性がある。

都によると、都内のコロナ感染経路別の割合は、(13日公表)家庭内感染が49.4%に対し、会食の場は14.5%となっており、一足早く9日に「まん延防止等重点措置」が適用された広島・山口・沖縄の三県では、重点措置の適用による行動制限の効果が現れているとみられ急激な感染拡大が収まりつつある。専門家の間でも「ピークアウトは近い」との声が聞かれるようになった。

沖縄県の新規感染者は1月2日51人から8日には34倍の1759人まで急増、措置後一時1829人の最多を記録したが、その後、前週を下回るようになっている。感染経路は、今月8日は「友人・知人」「飲食」が47.9%を占めていたが、19日時点では9.8%に減少。最近では家庭内感染が目立っている。

今後は検査・ワクチン・治療薬をうまく組み合わせた対策を実施するとともに、高齢者や持病のある方、警察・消防・保育施設で働く「エッセンシャルワーカー」に対するワクチン投与などを急ぐ必要がある。個人の従来からの対策についても油断することなく十分に対応したいものである。

人生を行くときの手すり

ニーチェの言葉

注意を怠ると転落事故が起きかねない溪流沿いの細道や橋などには、必ず手すりがついている。実際事故が起きるときには手すりもろとも落ちてしまうだろうから、その手すりは万全さを保証しているわけではない。

しかし、手すりがあれば、それなりの安心を得ることは出来る。

このような手すりとして、父親、教師、友達は、わたしたちに安心と保護されているという安定感を与えてくれる。彼らに完全に寄りかかっても助けにはならないかもしれないが、心の大きな支えにはなってくれる。

特に若い人には、こういう手すりのような役割を無意識に果たしてくれる人がどうしても必要だ。それは、若い人が弱いからではなく、よく生きていくためにだ。

【人間的な、あまりに人間的な】

本質を見分ける

ニーチェの言葉

鉱泉の出方はそれぞれだ。とうとうとあふれんばかりに湧き出る鉱泉。尽きることなく流れ出るもの。ぽたぽたと滴(しずく)をしたたらせるもの。

鉱泉の価値を知らない人は、その水の量で豊かさを判断する。

鉱泉の効用を熟知している人は、その泉の水ではないもの、含有成分で鉱泉のよしあしと質を判断する。

同じように、他の事柄に関しても、見かけの量の多さや、圧倒的な迫力にまどわされてはならない。

何が人間にとって意味と価値のある質であるのか。本質を見分ける眼を持つことがきわめてたいせつなのだ。

【漂泊者とその影】

賢さは顔と体に表れる

ニーチェの言葉

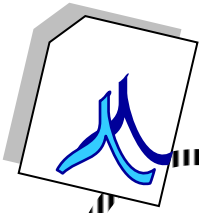
賢明に考える習慣を持つと、そのうちに顔が賢そうな輝きに満ちてくる。表情ばかりか、体の見た目も賢そうになってくるのだ。

たとえば、他人から見て動作や姿勢のあり方にシャープな感じが出てくる。

どのような精神を持つかによって、人間の外観もまた変わるのだ。

元気な人が活発に歩くように、悲しみと失意を秘めた人がトボトボと歩くように。

【人間的な、あまりに人間的な】



新井 白石 (江戸時代中期の旗本・政治家・朱子学者)

明暦3年2月10日(1657年)	上野国新田郡(群馬県太田市)の上総久留里藩に仕官し、目付を勤めていた父正済の子として生まれる。わずか3歳で父の読む儒学の書物を書き写したという伝説を持つ。
延宝2年(1674年)17才 天和3年(1683年)	中江藤樹「翁問答」を読み儒学を志す。大老・堀田正俊に仕えたが、堀田氏が国替えを命じられ浪人となる。
貞享3年(1686年) 元禄6年(1693年)37才 宝永6年(1710年)	朱子学者・木下順庵に入門。順庵は甲府藩主の甲府徳川家に仕官を推挙。徳川綱豊が家宣と改め将軍に就任。側用人の大学頭・林信篤を抑えて、職責の大半を白石に代行させた。白石は「正徳の治」と呼ばれる政治改革を行った。一介の旗本が将軍侍講として幕政に深く関与したことは異例のこと。
正徳2年(1712年)	徳川吉宗が8代将軍になると、白石や近習衆をすべて失脚させ、白石が行った「朝鮮通信使」「武家諸法度」など全て覆した。
享保2年(1717年)	幕府より与えられた千駄ヶ谷にて隠棲した。
享保10年5月19日(1725年)	死去 享年69歳。従五位下、贈正四位

オススメの BOOK



「世界でいちばん幸せな男」

著者 エディ・ジェイク

出版社 河出書房新社

著者は1920年生まれ。ドイツに生まれたユダヤ人。ナチス政権下で、ブーヘンヴァルトやアウシュヴィッツなどの強制収容所に送られ、強制労働に従事。本人は技師であったことと、過酷な労働に耐え抜く体力を維持できたため、ガス室へ送られずに済んだが、多くの人がガス室に送られ一説に400万人の命が奪われたとの説もある。

エディは其中で奇跡的に収容所から逃れ、現在101歳で本書を出版した。強制収容所での壮絶な体験を経て、「美しく豊かな人生を手に入れることができた」と体験談と現在の幸せがもたらしたものを語っている。

介護にかかる費用はいくら？



多くの人が老後の人生を心配しています。平均寿命と健康寿命に10年近くもの差があることから、今後の介護費用の増大が懸念されている状況でもあります。

厚労省によると2019年度の要介護(要支援)の認定者数は669万人、もはや介護は他人事ではありません。

公的介護保険の介護サービスを受ける際、実際に支払うのは自己負担のみですがそれでも多額の費用が必要です。介護状態になった場合の平均自己負担総額は500万円といわれています。(H30年度生命保険文化センター調べ) 内訳は介護の初期費用(住宅改造や介護用ベッドの購入等にかかる一時的な費用)が69.2万円、継続的な費用が月額平均7.84万円です。そして、介護期間の平均は54.5カ月となっています。介護期間には個人差がありますが、最も多いのは「4~10年未満」で28.3%です。

自分の介護、身内の介護が何歳から始まるのかは誰にも分かりません。だからこそ、早めに備えておくことが大切といえます。

公的介護保険と生命保険会社の介護保険の違い

区分	公的介護保険	生命保険会社の介護保険
給付	【現物給付】 要介護認定を受けた利用者が、所得に応じてかかった費用の1~3割の利用料を支払うことで介護サービスそのものが給付される現物給付。	【現金給付】 保険契約に定める所定の要介護状態に該当すると、契約時に定めた金額を受取人が受け取る現金給付。
要介護状態	39歳以下は原因を問わず給付対象外。 65歳未満の人は、「老化(加齢)に伴う特定の病気で要介護状態になった場合に限り給付を受けられる」といった年齢による制限がある。	独自の基準が約款で定められている。最近では、公的介護保険の要介護認定に連動した商品が増えています。どの要介護度から給付されるかは商品により異なる。
加入年齢	40歳以上の人を被保険者とした市町村が運営する強制加入の社会保険である。	40歳未満でも契約できる(何歳から介護保険を契約できるかは、生命保険会社によって異なる)
払込期間	要介護状態と認定されて給付を受ける人を含め、加入者は一生涯保険料を負担する。	契約で定めた期間に亘って保険料を払込む。 保険料払込期間中に要介護状態に該当して給付を受ける場合、その後も契約が続く商品では払込免除となるのが一般的である。

公的介護保険や医療費控除を利用した後の自己負担がどれくらいになるのか知っておくことで介護費用の対策ができます。

公的介護保険で賄いきれない自己負担分を補う方法の1つとして民間の介護保険で備えるのもよい方法ではないでしょうか。

【編集後記】

将棋王将戦で藤井聡太(19才)四冠が渡辺明王将に挑んでおり、2連勝と幸先の良いスタートをきった。

秋田県では全県選抜囲碁大会が開催され、16名が選抜された。その中に秋大付属中高山皐五段(14才)が初出場し見事準優勝に輝いた。10代選手が優勝決定戦まで進出したのは、実に26年ぶりのことである。

若い世代が様々な分野で活躍する姿を見ることは本当に嬉しいことだ。この活躍の場がどんどん拡大されて明るい未来を切り開いて欲しい。